

# 令和3年度 事業計画書

社会福祉法人竹山愛育会  
認定こども園あいきくの丘

## I. 法人

令和2年度は、未知の感染症である新型コロナウイルスが、全世界で爆発的に拡大し、改めて、人類が自然との共生、その必要性、真の意義と向き合うことを突きつけられていると感じる1年となりました。

当法人においても、認定こども園、アフタースクールにおいて、3密を避け出来る限りの感染防止対策を施しながら「新しい様式」を取り入れ運営してまいりましたが、チームで対応していく力が求められており、チームの成長を導くリーダー層の力を高めていくことが重要であることから、各種研修の受講、定期的な面談等により人財育成の柱としてリーダー層の育成に努めてまいります。

また、第2期丹波市子ども・子育て事業計画2年目となる令和3年度に法人設立後10年目を迎え、引き続き法順守に徹し、経営の健全化に努め、地域社会により一層貢献できる法人となるよう役職員一丸となり努めてまいります。

施設設備面では、こども園園舎が築7年を超過し保育室扉等に不具合が生じてきていることから、優先度の高いものから順に修繕を行ってまいります。

## II. こども園

### 1. こども園の運営

(1)定員 135名 (1号認定児 25名、2号・3号認定児110名)

(2)園児数 140名 (令和3年4月1日予定)

	園児数	保育標準時間	保育短時間	教育時間	備考
0歳児 (そら組)	6	1	5	—	丹波市4 福知山市2
1歳児 (ほし組)	16	8	8	—	丹波市13 福知山市3
2歳児 (にじ組)	24	8	16	—	丹波市20 福知山市4
3歳児 (つき組)	32	15	13	4	丹波市28 福知山市4
4歳児 (ひかり組)	29	11	10	8	丹波市18 福知山市11
5歳児 (たいよう組)	33	13	14	6	丹波市25 福知山市8

### (2)職員数

・令和3年4月1日 (予定) 職員数 55名

[園長1名、事務長1名、副園長1名、主幹保育教諭2名、管理栄養士1名 (給食室主任)、看護師1名 (病児保育室主任)、保育教諭30名 (内副主任4名)、栄養士1名、保育士5名、調理師2名、事務員2名、補助員1名、バス運転手2名、アフター指導員5名]

・雇用形態

常勤職員21名、常勤的非常勤職員13名、非常勤職員21名

### 2. 教育・保育

・職員全員が園の目標、理念をしっかりと把握し、意識の共有化を計り、幼保連携型認定こども園教育保育要領をしっかりと読み解き、子どもの成長や実態を考慮した指導計画をたて、日々の教育・保育を行う。

- ・年齢別保育を基本とし、自由時間や時季によっては混合保育、異年齢児保育を行う。
- ・園の特色である自然環境教育の充実を図る。(クニュータナ、ムッレ教室等)
- ・園の各種行事や食育活動、地域との交流等様々なことを体験し、園児の心身の発達を育てる。
- ・育ちの連続性を大切にし、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識しながら就学前教育を行う。

## (1)教育・保育方針

### 「五感で四季の移り変わりを感じ、自然と共にたくましく育つ」

#### 「理念」

自然豊かな環境のなか、心豊かな人格形成・心身の発達を培い、自尊心の育ちを大切にする教育・保育を目的とする。

#### 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

ア、健康な心と体 イ、自立心 ウ、協同性 エ、道徳性・規範意識の芽生え オ、社会生活との関わり  
カ、思考力の芽生え キ、自然との関わり・生命尊重 ク、数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚  
ケ、言葉による伝え合い コ、豊かな感性と表現

## (2)資質・能力を一体的に育む(幼児期の遊び、生活を通して)・・・資質・能力の3つの柱

- ・「**知識及び技能の基礎**」豊かな体験を通じて感じたり、気付いたり、分かたりできるようになったりする。
- ・「**思考力・判断力・表現力の基礎**」気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。
- ・「**学びに向かう力、人間性**」心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を育もうとする。

## 3. 保育時間

管理運営規則の定めによって行う。

## 4. 安定した運営

- ・校区内の少子化の現状を把握し、隣接する福知山市の受託児も受け入れながら安定した運営を心がける。
- ・安定した保育環境を整えるためにも、バランスのよい職員配置を心がけ、人材確保に努めるとともに職員処遇の適正化を図る。
- ・繁雑な事務を各担当において分担し、スムーズな事務作業が行えるように努める。
- ・管理職、及び主幹、主任、副主任(リーダー)等の監督職について、専門分野の資質向上を図るとともに、将来にわたって安定した運営を可能とすべく園経営についての意識を養っていくように努める。

## 5. 職員研修

- ・キャリアアップ研修や教育委員会主催の公開保育や研修会等にも積極的に参加し、保育の資質向上に努める。  
また、各分野における専門性の向上を図る。
- ・各年齢において適したねらいを十分に把握したうえで、指導計画を作成できるように、年齢別の保育教育課程の見直し、調整を行う。
- ・特別支援についても積極的に研修会等に参加したり、関係機関への見学を行うなど知識を深めたり、また園内におけるケース会議を充実させ、個々の園児に合った指導を行う。
- ・チェックリスト等により、自分の保育を見直す機会を設け、自己管理を充実する。
- ・自然環境教育のステップアップ研修にも積極的に参加する。
- ・社会人としてのマナー研修等も計画的に取り入れる。

## 6. 各種関係機関や家庭との連携

- ・多数の小学校との連携を図る必要が生じてきているので、年度当初より保護者からも就学先の情報収集等を心がけ、全ての園児が安心して就学を迎えられるように努める。
- ・教育委員会、子育て支援課、健康課、自立支援課等、必要に応じて関係機関との連携を充実する。また、地域の諸団体と連携を密に取りながら地域一体となって子育てができる環境づくりを推進する。
- ・認定こども園あいきの丘の教育方針、目標を保護者に伝え、保護者との意識の共有を図る。

- ・保育の質と安全、安心を確保し、保護者の声を大切にしてそのニーズに応え、信頼、安心、喜ばれる園づくりに努める。
- ・アレルギー対象児については、家庭や関係機関との連携を十分に図り、細心の注意を払う。
- ・保護者対象アンケート等を実施したり、またそれを公開する等、常に真摯な態度で保育の充実を図る。
- ・子育ての個別支援が必要な家庭には担任や主幹、看護師、管理栄養士等、内容によって必要なメンバーで検討し、適切な支援方法を考える。
- ・各種たよりや日々の連絡帳において必要な連絡は必ず行い、また感染症や災害時の対応など、緊急を要する情報は「よいこネット」を通じて迅速に情報発信を行う。
- ・コロナの感染症予防等によりお休みしている園児や保護者、また関係機関との新しい連絡方法として zoom 等も利用する。

#### 7. 整備計画

- ・各所の点検を定期的に行い、不備なところがあれば早急に修繕を行う。
- ・色々な場面を想定し、常に園児の安全を意識し、危機管理に努める。
- ・園庭の環境整備。

### Ⅲ. アフタースクール

子どもが安心して過ごせる環境を整え、安全面に配慮しながら自ら危険を回避できるようにしていくとともに、子どもの発達段階に応じた主体的な遊びの生活を保障し、子どもの健全な育成を図ることを目的とする。

- ・コーディネータを中心に職員間の連携を深め、共通認識をもって児童や保護者の対応を心がける。
- ・個々の児童の姿や集団での姿を常に把握し、児童の心に寄り添った対応を心がける。
- ・保護者との連携を密にし、また児童の尊厳や個人情報についても慎重に対応する。
- ・支援を要する児童に対しては各児童にあった支援方法を検討し、安定した生活を送れるように努める。